

2021年10月13日

建設通信新聞

学内の枠を超え「縁」結ぶ

総合資格学院、学生実行委が「建築学縁祭」初開催

総合資格学院（岸峰司社長・学院長）と建築学縁祭学生実行委員会は9月24～26日、建築系イベント「建築学縁祭」を初めて開いた。首都圏の大学生、専門学校生が学内の枠を超えた「縁」を結び、今後の成長に向けた糧を得る場として企画した。学生が作品を競い合う設計課題講評審査会「Rookie選」には48大学、3専門学校から347作品のエントリーがあり、参加者は熱戦を通じて貴重な経験を積んだ。



受賞者、審査員らによる記念撮影

3日間にわたったイベントはRookie選やシンポジウムで構成。25日には首都圏の大学・専門学校の教員7人が設計課題について議論するシンポジウムと、学生による活動発表会が開かれた。

作品展覧会ではイベント期間中、Rookie選にエントリーした作品の中から選んだ100件を講評審査会会場の新宿パークタワー（東京都新宿区）のアトリウムなどに展示し、一般公開した。

26日に開いたRookie選では、展示した100作品を審査員が巡回審査し、公開審査に参加する10件を選出した。審査員は、五十嵐淳氏（五十嵐風浮建築設計事務所）、多田脩二氏（千葉工業大准教授）、谷尻誠氏（SUPOPOSE DESIGN OFFICE代表）、中

川エリカ氏（中川エリカ建築設計事務所）、羽鳥達也氏（日建設計）、山本佳嗣氏（東京工芸大准教授）を務めた。

Rookie選の冒頭、岸学院長は「学生実行委員とともにイベントの準備を進めてきた。この場で得たつながりが将来の助けになり、皆さんの大きな力になることを願っている」とあいさつした。

公開審査は西田司氏（オンデザインパートナーズ）の司会で進んだ。10人の学生が5分間の持ち時間でブ



中川エリカ氏の基調講演



最優秀に輝いた御巫さんのプレゼンテーションし、設計コンセプトや作品に込めた思いを披露した。質疑応答では、「ワクワクする部分が少ない」「肝になっている発想はどこからきているのか」といった審査員からの質問に、緊張しながらも懸命に答えた。

審査の結果、最優秀賞には御巫景祐さん（早大3年）の「10本の蔦か

ら生まれる『渚』〜2つの町の新しい境界〜」が輝いた。優秀賞には久野祐璃さん（日大3年）の「MM GATE SQUARE『海と陸を紡ぐゲート』」と、大岩樹生さん（法政大3年）の「待つ壁 下北沢駅前元小田急線セルフビルドを誘う未完の集合住宅」、総合資格賞には奥田真由さん（法政大2年）の「つないでいく、この道で」、ボラス賞には朝長優斗さん（東京都市大3年）の「狭小空間と立体的なオープンスペース」が選ばれた。

結果公表後、審査員からは「うまく何かをまねるより、オリジナリティを発揮してもらいたい」「皆さんの時代の建築をつくってほしい」など、未来の建築家にエールが送られた。